

1 自己評価及び外部評価結果

平成27年7月14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670201357
法人名	トータル・メディカル津沢株式会社
事業所名	グループホームひだまり高岡
所在地	富山県高岡市蓮花寺 1-1
自己評価作成日	平成27年6月10日
評価結果市町村受理日	平成27年7月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	平成27年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「グループホームひだまり高岡」には認知症介護と正面から向き合う経験豊かなスタッフが勢揃いしています。またスタッフ全員、日々「笑顔」「感謝」の気持ちを大切にしながら、利用者の心の架け橋となるための努力を惜しみません。臨機応変に柔軟な対応をして、時間に縛られず、自分のペースでゆったりとした時間が過ごせるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は、利用者一人ひとりの持っている力を引き出しながら、安全に安心して暮らせるように支援している。また、利用者の心身に優しく寄り添うケアについて、研修などで学び合い、質の高いサービスの実践につなげている。散歩中に出会う近所の人達や事業所を訪れる家族・来訪者などに、笑顔で明るく挨拶するなど、温か味のある雰囲気をつくり、利用者も職員も共に和やかに過ごせるように配慮している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームひだまり高岡

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を理解し、地域との共生を念頭に着実に作り上げていけるよう努めている。	法人としての理念を踏まえ、事業所独自のモットーをつくっている。日々のケアの中で理念やモットーに立ち返り、職員全員で理念を実践するように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いきいきサロンへの参加や協力を通し地域の方たちと顔見知りになり、散歩や買い物等で会うと声をかけて頂いている。	近くの公園まで散歩し、親子連れなど、近所の人達と挨拶を交わしたり、地区主催の交流会（いきいきサロンなど）に出かけるなど、地域とのつきあいを大切にしている。	今後は、地域行事へ参加したり、事業所の催しごとに地域の人達に気軽に足を運んでもらうなど、地域の一員として、相互に行き来する関係をつくることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	意識的に地域の中に出向くよう心掛けています。公園で保育園の園児達と楽しく会話を交わしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域の情報、ホームの情報交換をしている。ホームで活かせる取り組みが、話の中に出る場合は、助言を頂き職員と話し合いながら実践している。	地域の高齢者推進委員や家族代表、地域包括支援センター職員などのメンバーから、地域行事の案内、家族として感ずること、脱水症予防など、様々な意見をもらい、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問や相談がある場合は、高齢介護保険課の担当職員に電話で確認するか、直接相談に出向いて助言を求めている。	介護保険制度の改正点や、職員の人員配置要件など、わからない点があれば、市の担当者に相談し、具体的な回答を得るなど、市と連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠はせず、リビングの横の戸にはベルを付け、戸が開いた時には、職員が直ぐに傍に付けるようにしている。自由な暮らしを支援する環境と安全への配慮をしている。	身体拘束のないケアを実践するために、経験豊富な職員が「こうすると抑制することになるので、こうした方がいい」などと具体的に指導する体制をつくり、また、研修会やカンファレンスの機会に、事例などを学び、職員の理解と意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のミーティングを利用し情報の共有を図っている。ホーム内での利用者への言葉使いや介助方法で不適切な場合は、直ちに主任、管理者が職員に対し注意を促す。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	母体のトータル・メディカル津沢株式会社の職員に司法書士の有資格者がおり、利用者からの相談時には助言をもらっている。現在成年後見制度を利用している利用者が一名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人で契約の締結の方法を学ぶ機会を設けている。各事業所から2名ずつ参加している。利用者、家族に十分な理解、納得を得るよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、現在まで投稿はない。家族の面会時に利用者の近況報告をしている。又その際忌憚のない意見を言っていただけの環境づくりに心掛けている。	家族へは密に連絡を取り、信頼関係を築く中から、遠慮なく要望などを話してもらっている。利用者には、外食で食べたいものを聞き「回転寿司に行きたい」などの声に応え、喜んでもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に管理者と職員が意見や提案を話し合っている。又、職員の意見を反映し働きやすい職場づくりに努めている。	管理者は日頃から職員の意見を聞き、代表者につなげる体制をつくっている。また、職員から色々な提案（壁面の装飾や母の日のカーネーションづくりなど）があり、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの職員が目標を持って働けるよう人事考課を年2回実施しています。短期、中期、長期の目標を設定し、自己評価を行い達成度確認している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の知識や技術を見極めながら外部研修の機会を推進している。社内研修では、全体研修を本社などで2ヶ月に一度実施している。心地よさや安心感を与えるタクティールケア、接遇、移乗技術等実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	日本認知症グループホーム協会に登録し研修会や事例発表会に参加し各事業所の問題を一緒に考える機会を設けている。又高岡市内のグループホームの管理者達と定期的に情報交換を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いを言いやすい雰囲気や環境づくりを心掛けている。安心して生活をしていただけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し家族だけで抱え込まないよう寄り添い、共に本人の生活を支えて行ける様に環境づくりに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時やひだまり通信等を活用し家族との意見交換が定期的に行える様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの生活の中で、出来る事を共に行い、主体的に生活してもらえよう心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月近況や写真で連絡している。又年賀状や季節の便りを通じて家族の交流を大切にしている。面会時には出来るだけゆっくり過ごして頂けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と協力する機会が持てるよう努めている。	入居前に住んでいた近所の人や菩提寺の住職夫妻が訪ねて来てくれたり、高岡御車山祭見物に出かけるなど、馴染みの人や場との関係が継続できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を普段から観察している。口論になる利用者に対しては職員が仲介している。席の工夫をしたり一緒にレクリエーションを楽しんでもらいながら利用者さんが仲良く生活できる環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族さんの近況を尋ねたり、困っている時は相談に応じたり、ネットワークを生かした取り組みを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段からの観察や関わりの中で利用者さんのニーズの把握に努めている。カンファレンスを活かし職員が統一したケアが出来る様努めている。	不安気な表情になるのはどんな時かなど、職員は常に利用者の様子に留意し、「気づき付箋」に書き留めている。その「気づき付箋」などをもとに、職員間で本人の思いを本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が表現できる場合は本人に会話の中から把握しているが、本人が表現できない場合は家族等面会時に伺いながらサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日々のサービスやかかわりの中で利用者のストレングス（利用者の持っている力）に着目し、活かせる場所や場面を意識的に演出し自信に繋げている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録や月1回のカンファレンスで利用者一人ひとりを対象に意見交換しプランを作成している。家族の訪問時には話を聞きプラン作成に反映させている。	利用者の持っている力を引き出しながら、安全に安心して暮らせるよう、職員はアイデアを出し合い、また、利用者や家族から要望を聞いて、利用者一人ひとりの介護計画を作成し、見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や気づきを記録に残しプランに反映し、計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員に伝える事のできる利用者だけでなく出来ない利用者に対しても、状況に合わせて利用者に合うサービスを心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのある方の面会や本人の出来る事、趣味を活かせる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に担当医へ全員の状態を報告と受診をし処方を受けている。他の専門医の受診が必要と判断した場合は、家族又は看護師、職員が付き添いしている。	「家族が付き添う」「事業所の協力医に職員が付き添う」「訪問診療を受ける」におおまかに大別し、本人や家族に選んでもらい、安心して医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定をし、援助の中で気になる事があれば、看護師に連絡があり、受診が必要であれば家族又は看護師、職員が同行している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院との連絡調整、情報交換は、主に管理者が行っている。実施されている結果は職員に伝達している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段より管理者が家族へ状態等を報告し相談している。日常生活が困難になった場合は、嘱託医師、看護師、職員に相談している。家族には希望を確認し適切に対応している。連携している福祉施設等への相談は管理者が行っている。	人生の最期をどのように迎えたいか、本人の気持ちを尊重すると共に、家族の思いに寄り添って、可能な限り支援することとしている。現在、訪問診療体制が整いつつある中で、今後は、看取りを視野に入れた支援体制づくりに取り組むこととしている。	今後は、看取りについて、他の事業所の事例などをもとに、職員で学び合う機会を設け、医師や家族などと連携した体制づくりに取り組むことが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDをホームに設置し急変時の対応に備えている。職員が順次研修に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。一度は夜間を想定し訓練している。	年に2回、利用者と一緒に避難訓練を実施している。2階の車椅子利用者の避難方法のアドバイスを消防署から受け、職員で話し合うなど、訓練で得た課題の改善に努めている。	今後は、避難誘導後の見守りなどの協力を得るためにも、地域の人達に避難訓練に参加してもらうことが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった声掛けや対応を行っている。また常にプライバシーや羞恥心に配慮し、個人の尊厳を大切にしよう努めている。	利用者一人ひとりの気持ちと個性を大切にされた対応に努める中から、自然に利用者を尊重し、プライバシーに配慮した支援につなげるように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けに工夫し、本人の思いが言い出しやすい環境作りをして、自己決定に繋げている。言葉で表現できない利用者に対しては、表情や動きに注意して、そこから想いをくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員に余裕のない時もあるが、1日の過ごし方がある方は、その決まりが崩れて不安が強まらないよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の力に応じ、起床時に洋服を確認したり、入浴後鏡を見て頂き整容している。洗濯物を上に重ねて行くのではなく、新しい物を下に入れ同じ服にならないよう工夫している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力に応じて一緒に準備や盛り付け、米とぎ、お茶くみをして頂いている。山菜など頂いた時などは、利用者さんに教えて頂きながら調理している。	利用者にとって、三度の食事が待ち遠しくなるよう、出来立ての料理を彩取り良く食卓に並べている。また、春には、うどの天ぷら、夏には茄子の煮物など、旬の食材を味わってもらうように工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の栄養士が作成し栄養のバランスを考えている。職員が食事量、水分量の把握に努め、必要な栄養が取れない時は、献立や調理に工夫をしている。又食事量が少ない時は、栄養補助食品等を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。本人が出来ない所は、職員が介助している。利用者に応じ、舌ブラシ、デンタルリンスや口腔用軟膏を使用している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄表を活用し排泄パターンの把握に努めている。定時誘導や様子を観察しながら一人ひとりにあった支援をしている。	利用者の持っている力を引き出した排泄支援に努め、下着の上げ下げなど、出来ないところをさりげなく手助けしながら、排泄の自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を記録に残し、看護師、職員が確認している。服薬、水分調整は看護師の指示を受けて取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員が付き添うことで入浴準備ができる利用者は一緒に行っている。入浴は一人ひとりに声掛けをし確認をしてから実施している。男性職員では気になる利用者には女性職員が対応している。	お風呂嫌いな利用者には、無理強いせず、様子を見ながら準備と一緒にするなど、一人ひとりの利用者のその日の体調や心情に寄り添った入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて対応している。希望があれば枕や毛布は自分の愛着のあるものを使用している。居室に戻る時間は個々の就寝時間を尊重している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々の薬については、理解している。誤薬の無いよう厳重にチェックを行っている。服薬は利用者に応じた方法で服薬している。症状の変化を見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の力に応じた役割や楽しみを提供している。今までの楽しみが継続出来る様、材料の準備や環境作りに努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者によっては家族と一緒に外出している。天気の良い日は、近所の公園まで散歩に行ったり、ドライブに出かけている。	裏手の畑に出て、四季折々の野菜を収穫したり、近くの公園まで散歩し、遊具に興ずる親子連れと挨拶を交わすなど、日常的に戸外に出るように心がけている。また、外食やおとぎの森公園などへ出かけ、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の管理が出来る入居者はいない。物盗られ妄想がある利用者さんはトラブルになり、欲しい物や必要なものは利用者さんの希望を聞いたり、家族と相談しながら購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんからの希望があれば電話を取り次いでいる。家族の同意と時間帯や場所に配慮しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの入り口や畑などに季節の花を利用者さんと一緒に植えている。ホールには季節ごと利用者と一緒に壁飾りを作り飾っている。	リビングでは、春には、いただき物の山菜の下ごしらえをしたり、梅雨時には、紫陽花の切り絵を飾るなど、利用者と職員が一緒に会話しながら作業を行い、生活感や季節感を感じてもらっている。また、カーテンの開閉、こまめな温度調節などを行って、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き一人でも落ち着いて過ごせるよう工夫している。自席ではなくても、話が弾んだりしている時は自由に座って食事やおやつを摂って頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前から行っていた趣味などは、ホームでも出来る様、家族の協力を得ながら継続をしている。	農作業の合間に縄で袋を作っていた利用者の家族から、織り機を持って来てもらうなど、本人や家族から得た情報をもとに、家族と協力しながらその人らしい居室をつくるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには利用者が貼ったちぎり絵で張り紙をしてわかりやすくしている。また居室がわからない利用者には、名前を書いて確認してもらっている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームひだまり高岡
作成日 平成27年7月21日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流が不足している。地域の中で利用者が持てる力を発揮できる場面が少ない。	利用者が地域の中で持てる力を発揮できる。	グループホームから施設の行事を地域の方たちに発信し周知してもらえるよう働きかける。	1年
2	35	夜間マニュアルの避難訓練の実施にあたり地域住民の協力を得ていない。	避難訓練に地域の住民が参加し協力を得る。	自治会に働きかけ、グループホームの活動に感心を持ってもらう。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

グループホームひだまり高岡